

林董 （林） 外交官。嘉永二年（一八二〇）一月（一）〜二日江戸生れ、大正二年七月十日没（一八五〇—一九三三）。通稱佐藤東三郎、林董二郎。號藤陰。父は佐藤泰然、林河海の養子。慶應二年（一八二七）イギリスに留學、四年歸國して榎本武揚軍に加はる。のち新政府に入り、岩倉遣外使節團に隨行。香川・兵庫縣知事も經て明治二十四年外務次官。その後清・ロシア・イギリス各駐劄公使、外相、遞信相歴任。伯爵。

譯著書に、李拔 （リ）（抜）著『自治論』（名人民の自由）全二冊（譯、卷之上・明治十三年四月、卷之下・十一年）白板、島村紉助・回春堂・鳩居堂發兌）、タキアヴエリ著『羅馬史論』（譯、十河岸貫一校、明治二十九年九月）（二十八）白博文館）、『後けきり記』（時事新報社買筆記、明治四十二年十一月）（二十）時事新報社）等。